

公益社団法人 日野市シルバー人材センターが発足

月刊

さわやか

第48号
平成23年4月15日

《発行》
公益社団法人
日野市シルバー
人材センター
日野市日野本町2-4-7
0421581-8171

3月22日 都知事より正式認可
代表理事(会長、副会長)を選任

新年度第1回理事会

新公益法人制度への移行に伴い新法人の認可申請をしていた当センターは、さる3月22日に石原東京都知事の正式認可を得て、平成23年4月1日、「公益社団法人・日野市シルバー人材センター」として発足しました。



今井副会長



北村会長

常務理事は目下空席

この日、新年度第1回の理事会が開催されました。発足時の新役員は理事6名、監事2名(別表参照)。うち、当日の出席者は計7名でした。また、事務局から安藤事務局長と半田局長代理が参加しました。

新理事会は初めに、定款第23条により代表理事(会長、副会長)の選定を行い、新会長に北村讓司理事(前会長)、新副会長に今井信一理事(元事業部会長)を選任しました。常務理事は目下空席のため選定はありません。

続いて理事会は、新公益法人制度移行に際しての諸規程の整備を審議しました。事務局より計11項目にわたる規程等の新設、改正の提起を受け、これを決定しました。(3面に詳報)

理事会はさらに、センターの事

会員数
平成23年2月28日
1,781名
男性 1,360名
女性 421名
入会者数
2月 17名
(男13名、女4名)
但し、退会者13名

業推進組織として、従来の専門部に代わる新しい委員会の構成について検討しましたが、継続審議となりました。

なお、これに先立って、3月24日の旧理事会では、名誉会長規程、専門部会設置要綱など4規程の廃止が決定されました。廃止の期日は4月1日です。(3面参照)

新年度発足時の新役員(平成23年4月1日現在)

	氏名	地域班	経歴
理事	有賀信夫	多摩平2	理事、事業部会員
理事	今井信一	多摩平1	理事、事業部会長
理事	北村讓司	落川・百草	理事、会長
理事	渋谷善子	東平山	理事、広報部会員
理事	三輪信雄	多摩平2	事業部会員
理事	吉本清美	栄町	広報部会員
監事	沢井 茂	南平3	監事、地域班長
監事	大島康二	特別会員	監事、日野市課長

東日本大震災 会員の就業にも影響

3月11日発生した東日本大震災は、当センターの活動や会員の就業にも大きな影響を与えています。直接的には主として、東京電力の計画停電に呼応した日野市役所の自主的節電による公共施設利用制限の影響です。

市企画部によると、当面4月一杯の措置として、ひの煉瓦ホール(旧市民会館)と七生公会堂は終日、各ふれあい館、交流センター、地区センター、公民館、体育館等は夜間の利用中止。そのぶん会員の就業も制約を受けます。ただし学校は適用外です。

平成23年度会費の引き落としてについて

自動振込みの手続きをされている会員さんにつきましては、4月25日(月)に郵便局より、2000円を引き落としさせていただきます。

手続きをされていない会員さんには、改めてご案内させていただきます。(事務局)

今回6ページ建て

第61回定期総会を開催 旧制度で最後

平成23年度事業計画・一般会計予算等を承認

震災で 会場・時間を変更

旧制度最後の第61回定期総会が3月25日午前、生活・保健センターで開催されました。もともとは同日午後、七生公会堂で行われる予定でしたが、大震災の影響で急きよ変更(下面参照)。このため、会場の都合で、総会の直接参加者も地域班長規模にしばらくしました。

また、大震災への配慮から、馬場市長の挨拶も田原市議会議長の祝辞も省略されました。北村譲司会長の挨拶も、震災の犠牲者を悼み、被災者を見舞うものとなりました。(別項に挨拶要旨)

審議では、今井理事が平成22年度一般会計補正予算第2号(案)、平成23年度事業計画(案)、平成23年度一般会計予算(案)の3議案について説明、山本理事が「公益社団法人への移行認定について」の報告をし、総会はこれをすべて承認しました。

総会議事の他の事項は次のと

おり。

資格審査報告

本日の会員数	1792名
本日の出席者	52名
委任状提出者	1229名
合計1281名	71.5% 過半数で総会成立

議長団の選出

議長 長 酒合壽夫(落川百草班)
副議長 系井運平(平山2班)



議案を審議する総会出席者

北村会長の挨拶(要旨)

東日本大震災で多くの方々被災されました。心からのお見舞いを申し上げます。そして1日も早い復興をお祈り申し上げます。

平成23年度は新しい船出の年度であります。4月1日、公益社団法人日野市シルバ人材センターがスタートいたします。新公益法人としても、要求されるガバナンス、財務基準、法令遵守等を全うしていきけると思っています。

22年度第4回地域班長会議

第61回定期総会の終了後、平成22年度最後の第4回地域班長会議が開かれました。当初予定は3月15日でしたが、大震災直後のため延期されました。今回の班長会議ではとくに、独自に自主的にボランティア活動(社会奉仕活動)をしている6地域班の班長さんによる活動報告が行われました。次の方々です。

- 金田班長(白野本町)、吉野班長(新町)、田邊班長(南平3)、野上班長(程久保)、土方班長(新井高幡)、廣澤班長(白野台1) Bブロック代表として。

理事会ニュース

平成22年度第12回理事会

3月24日

審議事項 正会員の入会、諸規定の改廃について

報告事項 公益社団法人の認定について、2月事業実績、各専門部会・安全管理委員会の活動報告

「センター行事日程」
4月17日(日) 多摩川・浅川クリーン作戦

訂正 本紙前号1面「各地域班のボランティア活動」の記事中、日野本町班の項で(6日、104人)とあるのは、(9日、149人)の誤りでした。

絵画教室第29回油彩・水彩作品展 市民会館展示室
講師と受講生の作品約51点展示

5月1日(白)～5日(木)午前10時～午後5時。1日は午後1時～、2日は休館、5日は午後3時まで。

配分金の支払日

- 4月20日(水)
- 5月20日(金)
- 6月20日(月)
- 7月20日(水)
- 8月19日(金)
- 9月20日(火)
- 10月20日(木)

公益社団法人への移行に伴う諸規程の改廃

公益社団法人への移行に伴い、当センターは次のような諸規程の廃止、新設、改正を行いました。

4 規程を廃止 3月24日、旧制度最後の理事会で決定。廃止の期日は4月1日。

- 名誉会長規程.....新定款第6章で規定されたので、現行規程は廃止する。(注)
- 配分金規約.....今回改正の就業規約に統合する。
- 専門部会設置要綱.....委員会規則に変更する。
- 印章規程.....今回改正の事務規程に統合する。

5 規程を新設 4月1日、新理事会で決定。

- 理事会運営規則.....新たな「機関としての理事会」の運営ルール・方法を規定する。
- 情報公開規程.....現行要綱は廃止する。法定公開事項を定める。
- リスク管理規程.....リスク発生の防止と適切な対応を行い、センターの損失の最小を図る。
- 会員入退会取扱要領...入会申込手続、入会の可否等をきちんと規定する。
- 役職員の職務及び権限に関する規程.....旧事務規程から分離し、職務と権限を明確化。

6 規程を改正 4月1日、新理事会で決定。

- 事務費規程.....文言の整理。
- 表彰規程.....文言の整理。
- 就業規約.....配分金規約を統合(入会時に会員に示すこと)。
- 事務規程.....印章規程を統合(職務と権限は分離して別に規程を新設する予定)。
- 財務規程.....文言の整理。
- 事務処理運営要綱.....文言の整理。

(注) 4月1日の理事会で名誉会長に引き続き馬場弘融日野市長を選任しました。

地域班長の紹介

(平成23年4月1日現在)

地域班名	氏名	地域班名	氏名	地域班名	氏名
日野 1	増田 繁	日野台 2	栗山 進	平山 2	糸井 運平
日野 2	池内 直彦	多摩平 1	今井 信一	鹿島・南平	水橋 桂一
万願寺 1	不在	多摩平 2	藤峰 賢宜	南が丘・南平台	川辺 義昭
万願寺 2	桑原 重興	多摩平 3	林 良健	南平 2	伊藤 倭夫
日野 4	不在	旭が丘 1	梅澤 茂行	南平 3	田邊 正臣
日野本町	馬場 浩	旭が丘 2	宮古 和則	新井・高幡	土方 正作
新 町	吉野 久忠	豊 田	松本 仁一	落川・百草	酒谷 壽夫
栄 町	大間知紀彦	東 豊 田	伊藤 義視	三 沢	大塚 四郎
神 明	賀来 英紀	東 平 山	長尾 豊彦	程 久 保	三宅 省三
大坂上	小林 立之	西 平 山	倉澤 博	高 幡 台	鈴木 國友
日野台 1	廣澤 征一	平 山 1	高木 計宏	百 草 台	菅原 嘉雄

地域班長の交代 新年度から交代した班長は次のとおり。カッコ内は前任者。(敬称略)

- 万願寺1班 = 不在(畠山 勝利) 旭が丘1班 = 梅澤 茂行(小俣 義光)
- 日野4班 = 不在(棚瀬 鐵男) 旭が丘2班 = 宮古 和則(川畑 敏暢)
- 日野本町班 = 馬場 浩(金田 春雄) 程久保班 = 三宅 省三(野上 昭雄)
- 多摩平2班 = 藤峰 賢宜(清水 憲素)

植木班がキャリアアップ研修を実施

専門家を招いて初の剪定勉強会

「植木班はシルバの顔」それなのに植木班は植木屋じゃない。そんな内輪の声を汲み上げて班全体のレベルアップをはかろうと決めたのが、昨年11月の植木班1〜4班の班長会議でした。それが3月11日の「キャリアアップ研修会」となつて実現しました。当センタ―会議室に28名が参加。

植木班の研修会は以前にもありましたが、いわば仲間同士の教え合い。今回は初めて専門家の講師を招いての剪定勉強会です。

講師は、あきる野市で造園業を営む峰岸正樹氏。峰岸氏は都立立川技術専門校および、国際文化カレッジの講師で、『庭木の自然風剪定』の著書も出しています。研修会は、午前は「剪定について」の講義、午後は実習と質疑応答。とくに午後の実習が、全員期待の剪定勉強会の「花」。アカマツ、シダレモミジ、ドウダンツツジ等の野木や枝木が室内に持ち込まれ、まず峰岸講師が「みなさんならどうを切りますか?」と聞きながら、「私ならここにここに」と鉄

を入れます。この丁寧な実地講習の後、各人が実習しました。

植木歴15年のデラン伊藤豊氏(植木班)も、「さすが講義のレベルが違う」と感心していました。

新年度 植木班全体会議

植木班1〜4班の新年度初の全体会議が4月2日、生活・保健センターで開かれ、班員・関係者24名が出席しました。一同はまず大震災の犠牲者に黙とうを捧げた後、討議に入りました。



峰岸講師(右端)による剪定の実地講習

地域班長だより

程久保班 野上昭雄

私は三月末をもって程久保班の班長を退任いたしました。班長を引き受けて三年、会員の皆様、シルバ事務局の方々のご協力を得ながら、従来の路線に沿って、自分なりに何とか務め上げることができた?と思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。

程久保地域は程久保川に沿って開発された住宅地であるため、(丘陵地)にお住まいです。

地域班長を終えて

私は、運転免許を所持しておらず、自転車か歩きとなりますが、残念ながら急な坂道であるため、自転車で会員宅を回ることもできませんでした。従って、自分の足で歩いて回ることにしかありません。月刊さわやかの配付については、一部会員の好意に甘え、一定地区の配付にご協力を賜り、ありがたく大変助かりました。

しかし、甘えているだけでは、

地区の全会員に会うことができませんので、署名活動等の機会を利用して、全員に会うことができました。その際には、会員の就業状況やご意見を伺うとともに、社会奉仕活動、地域班会議等への参加をお願いして回りました。このきっかけが、清掃活動等への参加に、多少なりともつながったと思っています。

地域班会議等への参加率は低下傾向にあり、改善する方策が、なかなか浮かんでこないのが実情です。原因は種々あるかと思いますが、思いですが、「人と人とのつながりの輪」を広めることも、改善策の一つの手段ではないかと思えます。

班長と会員、会員と会員、会員とその他、各人各様のつながりがあります。これをシルバの大きな輪にすることで、地域班のまとまりにつながれば……。そのためにも、できるだけ多くの会員が、交代で班長に就かれることがよいのではないかと思います。

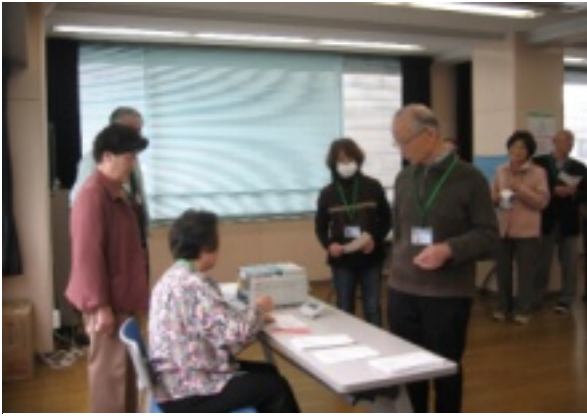
三年間、種々ありがとうございました。

都知事選 会員が選挙事務に従事

4月10日投開票された東京都知事選挙で当センターは日野市から選挙事務業務の委託を受け、会員80名が就業しました。内訳は受付業務(投票用紙交付)58名、開票業務20名、待機2名。当センター会員による選挙事務就業は平成21年4月の市長選、市議補選から始まって今回が6回目。

市選管による説明会

今回も事前に日野市選挙管理委員会事務局による選挙事務説明会が行われました。3月18日、



投票用紙交付業務のリハーサル

生活・保健センターでの説明会で松本茂夫選挙事務局長が受付業務と開票業務の2グループにそれぞれ説明しました。心得としてとくに、選挙人への言葉遣い、苦情への対応、私語の厳禁等の注意がありました。

入念にリハーサル実施

説明会に続いて、選挙事務リハーサルがセンター会議室で、受付業務は3月31日、開票業務は4月1日に行われました。

人数の多い受付業務の場合、全体を3グループに分け、1グループで10投票所20名が投票用紙交付業務を実習しました。当番の1名が受付席に着いて投票用紙を交付、次の当番がその後ろに立ち他の18名が選挙人になって投票用紙を受け取ります。この要領で20名全員が当番席に入ります。

他方、開票業務のリハーサルは20名1グループで済み。日野市選管では今回から投票用紙の自動読み取り機を導入し、開票作業は用紙の揃えだけで、候補者別の仕分けは不要となりました。

大震災復興義援金にご協力ください

地域班長からも訴えの声

「大震災被災地域のシルバ人材センター(S.C)復興支援のための募金を当センターとして訴えていただきたい」こんな声が3月25日の地域班長会議で上がりました。当センターはこれを積極的に受け止め、事務局に募金箱を設置しました。会員の皆様の暖かいご協力をお願いします。

なお、この募金は上部団体を通して、被災地域(とくに岩手、宮城、福島3県)のS.Cに届けるものです。お問い合わせは事務局へ
581 8171

全シ協も全S.Cに呼びかけ

全国シルバー人材センター事業協会(全シ協)は3月28日、全国の都道府県S.C連合会および各S.Cに復興義援金の募集を呼びかけました。

短信欄

新しい会員証を発行

4月1日からの公益社団法人へ

の移行に伴い、当センターは新しい会員証を発行し、各会員にケースとともに送付しました。今までの会員証は使用できません。

かしの木荘で臨時就業

日野市の福祉施設かしの木荘は3月31日で閉鎖となりましたが、東日本大震災の被災者受け入れ施設として4月一杯開放されることになりました。これに伴い、従来就業していた当センター会員のうち4名が、引き続き臨時就業することになりました。

公益社団法人

これまで当センターの正式名称は「社団法人 日野市シルバー人材センター」でした。これが4月1日を境に、1面にあるように「公益社団法人 日野市シルバー人材センター」に変わりました。平成20年12月1日施行の新公益法人制度に基づき措置です。当センターは平成21年5月28日の第58回定期総会で「公益法人制度改革に対する決議文」を採択し、都知事の認可で「公益社団法人」に移行することを決定、手続きをすすめてきました。

今年の安全標語を募集します

今年も、事故ゼロを目指し明るい環境作りを目標にした安全標語を募集します。

今年のテーマは

安全就業

自転車事故の防止

としました。ふるって応募してください。

応募点数

1人何点でも結構です。

応募方法

官製ハガキに地域班名と氏名を記入し、日野市シルバー人材センター事務局あて送付、または直接ご持参ください。
締切日 5月15日

最優秀作品1点、佳作5点を
選考し、入選者には6月の定期総
会で記念品を授与します。

(安全管理委員会)

昨年度事故は計6件
ただし、シルバー保険を
適用しない事故が急増

当センターの平成22年度の事
故件数は、傷害3件、賠償3件の
計6件でした(前年度は計5件)。
しかし、その背後には、シルバー総
合保険を適用しない事故が相当
数あり、昨年度は22件と前年度

シルバー保険適用外事故一覧表(本紙昨年11月号掲載分=計12件=以降)

No	発生日時・当事者	仕事の内容	事故の状況
13	10/22 午後 男性(68)	配送業務	後進で入庫する際、車両上部を損傷
14	10/26 午後 男性(70)	送迎業務	バイクと接触し、車両ドア等を損傷
15	11/15 午前 男性(70)	送迎業務	右折中、歩行者と接触。人身事故
16	11/16 午前 男性(68)	草取り 班	右折する際車と接触、右ミラー破損
17	1/26 午前 男性(67)	配送業務	右折する際接触、車両ドア等を損傷
18	3/04 午後 男性(71)	送迎業務	踏切内で停車するうち遮断機下り
19	3/07 午前 男性(71)	送迎業務	駐車場で車両上部を建物にこする
20	3/17 午後 男性(73)	送迎業務	駐車場でバックし塀に接触、後部損
21	3/18 午前 男性(64)	送迎業務	横道に入ろうとバックし、車と接触
22	3/18 午前 男性(65)	送迎業務	駐車しようとバックし、電柱に接触

7件の3倍に急増しました。うち
前半の12件分は昨年11月号(第
43号)に掲載。後半の10件分を別
表に掲げました。仕事内容でみる
と、送迎業務が7件と大半を占め
ているのが大きな特徴です。

送迎車、踏切内で立ち往生

右のシルバー総合保険を適用
しない事故は、軽微な事故とは限
りません。たとえば、別表の15番
は人身事故。さらに18番は、送迎
車を運転中、京王線の踏切内に
入ったところ、前にいた自転車の
通過を待つうち遮断機が下り、
身動きできず電車を止めてしま
いました。事故原因は、警報が鳴っ
ているのに踏切内に入ったこと
でした。

事故報告は直ちに 事務局へ！

事故報告については毎号お願い
していますが、励行されないケー
スがあります。きちんと励行する
ようお願いいたします。

(安全管理委員会)

市実施の特定健診、生き生
き健診は必ず受けましょう

問合せ先 市健康課 保険年金課

お元気ですか

まず、このたびの東日本大震
災で犠牲になられた方々、被災
された方々に、僭越ながら小欄
としても心からのお悔みとお見
舞いを申し上げます。

さて、本紙は今月で第48号と
なります。つまり、平成19年5月
の創刊からちょうど満4年が経
ちました。この間、一度も休刊す
ることなく、また大きな事故やミ
スもなく、小さなミスは多々あり
ましたが、続けてこられたことは
皆様のご支援、ご指導のお蔭と
感謝いたします。

本紙編集の特徴は、もう一つ
の会報「シルバーひの」(現在は年
2回刊)とともに、旧広報部会を
中心とした「会員の手作り」であっ
たことです。発行(印刷)も本紙
の場合は「手作り」です。

新年度からは、装い新たに専
任のグループが二つの会報の編
集・発行を担当します。会員の
皆様の関心に応え、役に立つ紙
面作りを心がけてまいります。引
き続きご愛読くださいますよう
お願いいたします。

(田中政寿)